

林業活性化を

後押し

福岡・
糸島市

福岡県糸島市は現在、木材価格の低迷が進む林業を活性化させ、循環型社会の構築をめざす取り組みを推進している。中でも、昨年10月に開設し

た貯木場・木の駅「伊都山燦」は、自治体としては全国初の設置で、注目を集めている。これまで、森林保全や林業従事者への支援などを訴えてきた市議会公明党の、ささぐり純夫、くろだ公二の両市議（共に市議選予定候補）はこのほど、「伊都山燦」を視察し、市担当者らと意見交換した。

自治体の設置は全国初

間伐促進で森林再生へ

ツブ用の端材は1ト約2000円で、それに加え、市商工会が発行する商品券3000円分が交付されるため、合計約5000円になる。

市農林土木課によると、開設から月に約100トが集められ、現在は合計約300トが集積している。商品券の活用を含めた買い取り制度は、市内商店街などからも「地域経済の活性化になる」と、好評を博している。

市域の約45%に当たる約9800畝が森林の糸島市。人工林約6000畝のうち、6割が間伐などの手が入らず、放置されている状態だ。最盛期は16カ所だった製材所も現在、稼働しているのは5カ所にとどまっている。

同課の井上義浩課長は、市内の森林から伐採された木材が換金され、従事者の就業機会や所得向上につながるとともに、山の手入れが進み、土砂崩れなどの災害対策へつながることに期待を込める。井上課長は「森林の再生・活用を進め、地元製材・製紙企業などと協力し、流通や雇用の活性化を進めたい」と述べた。

間伐や搬出の促進を阻む要因として、費用負担や遠方の貯木場への移送が挙げられていた。そこで市は、市内の森林から搬出される糸島材の集積や買い取りの機能を担う、木の駅「伊都山燦」を独自に開設。運営は、木材取引を行う民間企業に委託している。

視察を終え、ささぐり、くろだの両市議は、市が雇用促進などを盛り込んだ糸島型森林再生プロジェクトの取り組みを推進する考えを示し、「今後、も従事者の担い手育成を中心に林業活性化へ力を入れる」と語っていた。

木の駅「伊都山燦」が好評



「伊都山燦」で林業活性化への取り組みを担当者から聞く（左から）ささぐり、くろだの両市議

公明、担い手育成に全力

原木の買い取り価格は、建築材が1立方メートル約8000円。また、チ